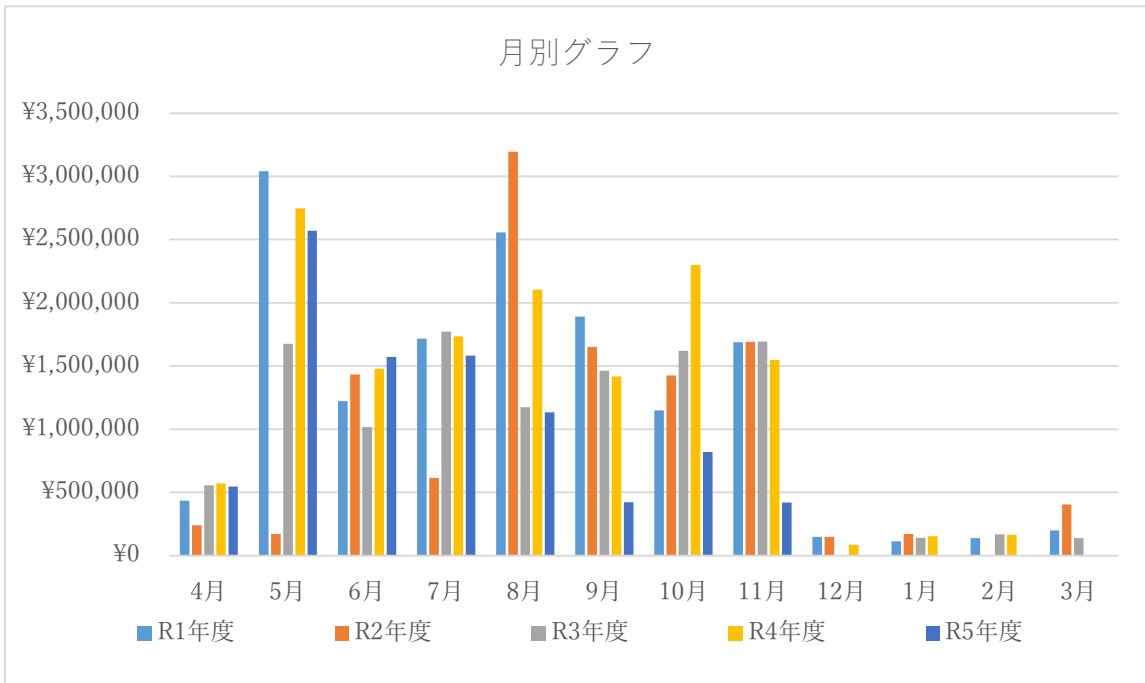
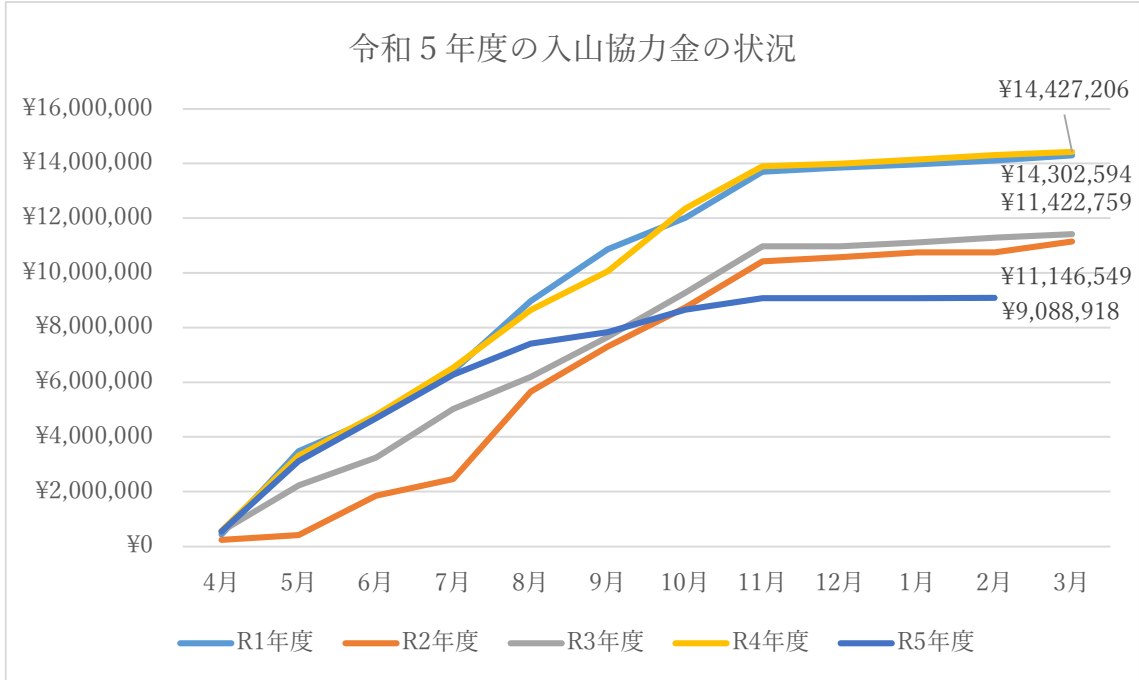
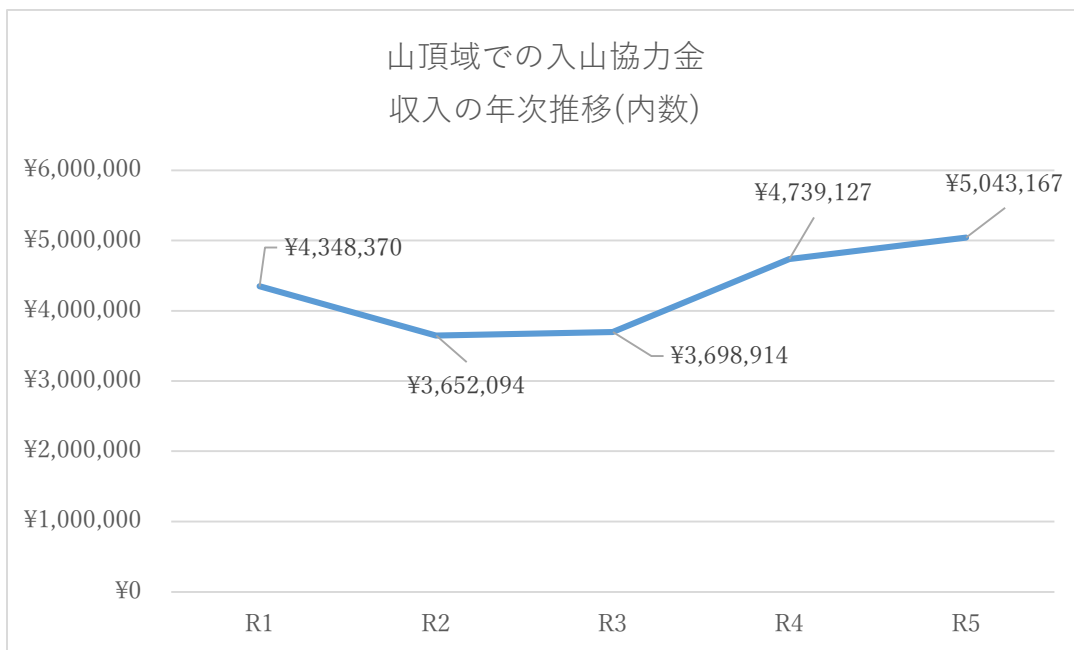


令和5年度入山協力金事業経過・予算執行報告について

■令和5年度 伊吹山入山協力金の収入状況（2月末時点）



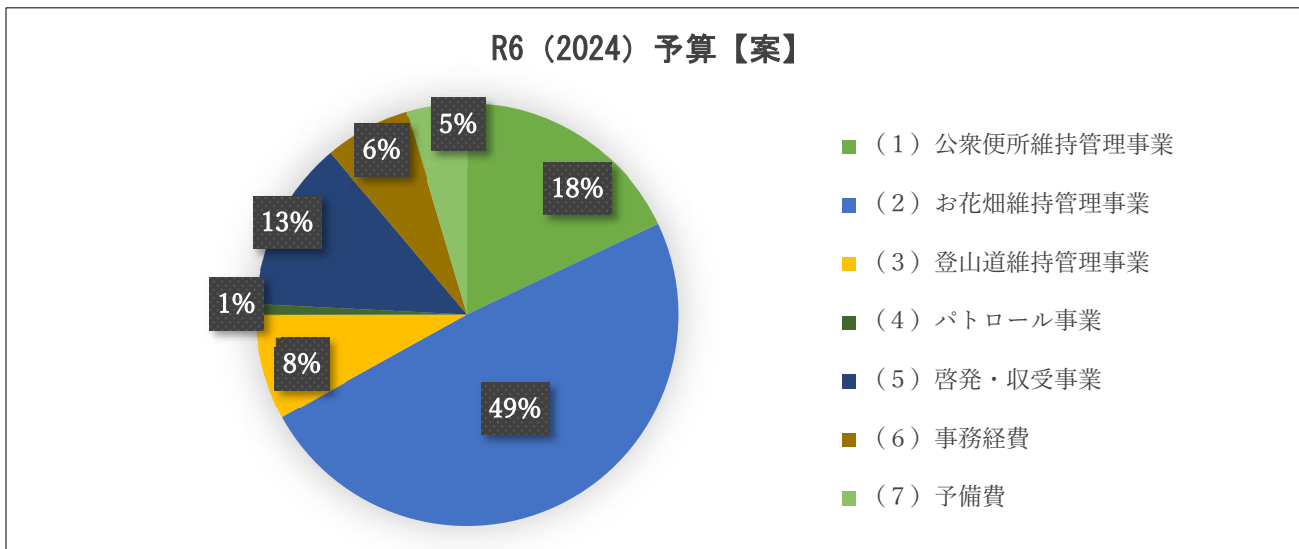


■ 予算執行状況 (R6年2月末時点) および決算見込額

	R6.2月末時点	R6.3月決算見込額	R6.3月執行見込内容
収入	18,630 千円 ※内、入山協力金以外の 寄付金額 企業：748 千円 個人・団体：686 千円	18,630 千円	—
支出	13,217 千円	15,330 千円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全団体補助金精算 (約 600 千) ・ パタサク等春季利用柵資材 (約 800 千) ・ 看板等 (トイレ表示板、西口協力金箱前) (約 200 千) ・ その他 (約 513 千)

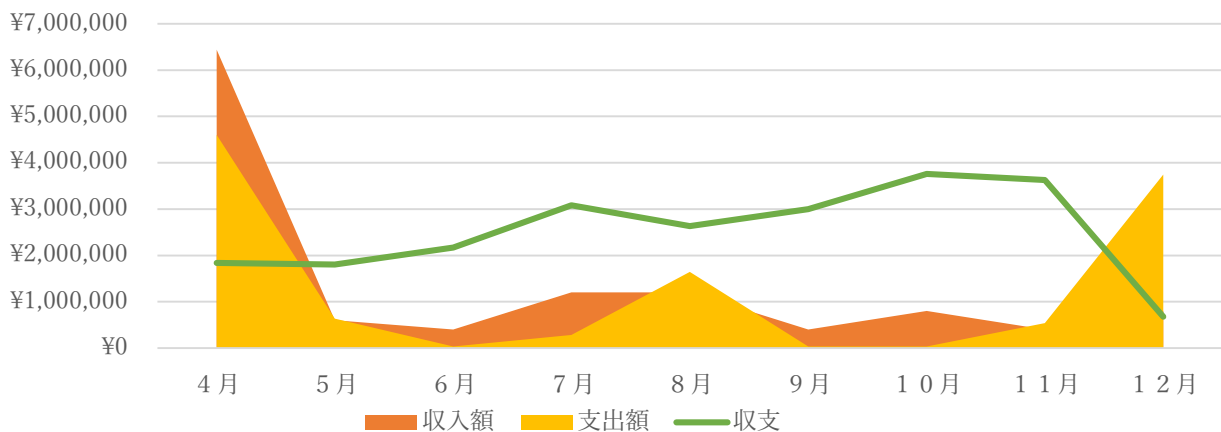
※収入見込 18,630 千円 - 支出見込 15,330 千円 = 3,300 千円【令和6年度への繰越見込額】

令和 6 年度伊吹山入山協力金事業計画書



過年度に実施した来山者アンケート（希望の使いみち）では、公衆便所の管理・改修、次いでお花畑の保護と登山道等の管理・改修の希望が多く（3項目で8割超）、その内容を踏まえています。

R6資金計画



<令和 6 年度事業 概略>

- ・滋賀県側山麓からの登山道復旧が完了していないことから、収入が大幅減少となる見込みです。一方で各種の保全事業は早期実施が不可欠であることから、基金を全額取崩します。特に4, 5月は余裕の無い運営となりますが、収入の状況を注視し、事業の運営を行います。
- ・植物重点ゾーン柵（山頂域西側）について、令和6年度中に金属柵化を完了させます。残り1km分について、米原市（国支援有）が約500m、部会が約500m分実施します。（完工見込：7月上旬）
- ・植物重点ゾーン柵（山頂域西側）内で、二重柵で保護するため小規模柵を設置します。R5年度調査に基づき、キンバイソウ群落を約80mで囲みます。また、R5年度に拡張したシモツケソウ再生地（面積：拡張前840㎡→拡張後2,630㎡）の補強、勢いの強い植物の刈取区画を設けます。
- ・小～中規模柵で保全していく共生ゾーン（山頂域東側）内で、旧中央柵の支柱を生かし、森林～林縁を約250mで囲みます。また、R5年度に再設置したニッコウキスゲ柵および周辺の植生調査を行います。

【令和6年春期：一斉ボランティアイベント（4月以降正式募集、とりまとめ）】

	日程（予定）	種別	内容	募集人数
①	5月中旬の平日	作業	森林～林縁保全柵設置	企業等よびかけ。30名程度
②	5月15日（水） 予備日：5月22日（水）	調査	森林～林縁保全柵内植生調査	5～10名程度
③	9月中旬	研修	エコガイド共通研修会（仮称）	30名程度

（1） 公衆便所維持管理事業 2,200千円

1. 公衆便所維持管理事業（1,800千円）

（助）維持管理助成費 1,800千円

- ・4つの公衆便所（山麓、一合目、三合目、頂上）に係る経費の約半分相当を「維持管理助成費」として米原市に支払います。【翌1月頃】

2. 公衆便所維持補修事業（400千円）

（直）緊急修繕 400千円

- ・4つの公衆便所（山麓、一合目、三合目、頂上）の突発的な故障に対応するため、緊急修繕費用を計上します。R5年度に大型工事を実施し故障頻度の低下が見込まれるため、減額しています。

（2） お花畑維持管理事業 6,000千円

1. 三合目貴重植物保全事業（2,000千円）

（補助）伊吹山を守る補助金 2,000千円

伊吹山自然保護活動団体による3合目における植物保全活動を支援します。

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会：獣害柵の金属柵化、既存設置柵の維持修繕、高茎植物の一斉刈、外来植物等の選択刈取

緑…金属柵化完了、赤…金属柵化予定



2. 山頂等貴重植物保全事業（4,000千円）

（補助）伊吹山を守る補助金 950千円

伊吹山自然保護活動団体による山頂における植物保全活動を支援します。

- ・伊吹山ネイチャーネットワーク：重要植物（絶滅危惧種等）の定点調査
- ・伊吹山もりびとの会：セイヨウタンポポ等外来植物の調査・除去、シモツケソウ再生地保全
- ・伊吹山頂山小屋組合：獣害柵による保全

（委）山頂作業委託 550千円

- ・山頂の獣害柵の設置や維持管理に係る作業を委託、または謝礼を支払います。

（調査：¥1,000日/人、作業：¥3,000日/人、乗合車¥1,000日/台）

- ・委託（字大久保：霊峰伊吹山の会、字上野：上野区）150人日分、謝礼50人日分等

（直）柵の資材費 2,000千円

- ・金属柵、結束線等

(直) その他 500 千円

- ・鹿追出し事業（ゾーン柵金属化後に一般ボランティア呼びかけ事業として実施）200 千円、門扉修繕等 200 千円、ボランティア事業バス借上 100 千円

(3) 登山道維持管理事業 980 千円

1. 山頂等登山道維持管理事業 (500 千円)

(補助) 伊吹山を守る補助金 500 千円

伊吹山自然保護活動団体による山頂における登山道整備活動を支援します。

伊吹山もりびとの会：山頂における登山道整備活動

2. 表登山道等維持管理事業 (480 千円)

(直) 斜面保全資材費他 480 千円

斜面保全資材費用等に活用します。

(4) パトロール事業 40 千円

1. 応急手当対策事業 (40 千円)

(直) AEDリース延長料 (7 千円)、薬代その他 (33 千円) 40 千円

(5) 啓発・収受事業 1,600 千円

1. 啓発・収受事業 (100 千円)

- ・伊吹山入山協力金への理解を求め、収受を行います。

2. 啓発・環境学習事業 (1,500 千円)

(直) 啓発物品作成 950 千円

- ・適正利用の呼びかけと情報提供を行い、伊吹山入山協力金への理解を求めるための、啓発ノベルティ、領収書、看板作成を行います。

(補助) 伊吹山を守る補助金 550 千円

伊吹山自然保護活動団体による伊吹山の自然と保全の啓発・学習事業を支援します。

- ・伊吹山ネイチャーネットワーク：自然観察会および親子自然観察会の開催

- ・伊吹山もりびとの会：ボランティアガイドの実施

(6) 事務経費 800 千円

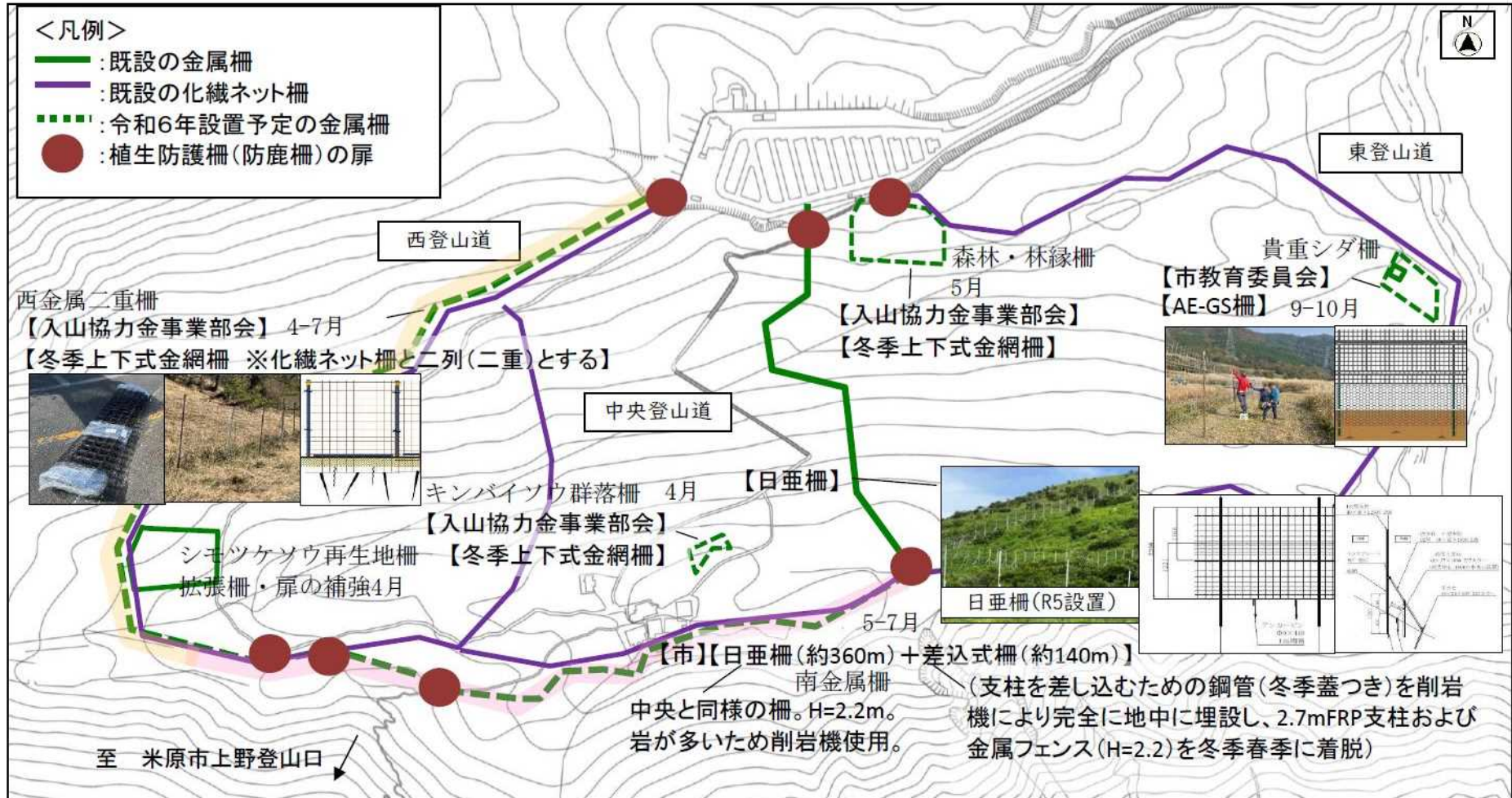
1. 事務経費 (800 千円)

(直) 伊吹山ドライブウェイ通行料 (450 千円)、手数料その他 (350 千円)

(7) 予備費 626 千円

計 12,246 千円

伊吹山植生防護柵 設置計画図



伊吹山を守る自然再生協議会 入山協力金事業部会

令和6年度(2024年度)予算書【R6.2.9議決】

収入

(単位:円)

項	目	節	予算額	前年度予算額
(1) 伊吹山入山協力金	1 入山協力金	寄付金	¥5,000,000	¥14,000,000
	2 その他寄付金	寄付金	¥800,000	
(2) 雑収入	1 雑収入	雑収入	¥1,000	¥1,000
(3) 基金	1 基金	登山道施設改修基金	¥1,880,000	¥620,000
		植生防護柵改修基金	¥1,265,000	¥3,300,000
(4) 繰越金	1 繰越金	繰越金	¥3,300,000	¥2,000,000
合 計			¥12,246,000	¥19,921,000

支出

項	目	節	予算額	前年度予算額	
(1) 公衆便所維持管理事業	1 公衆便所維持管理事業	助成費 【基金充当500千円】	¥2,200,000	¥1,800,000	¥3,220,000
	2 公衆便所維持補修事業	修繕料、工事費等 【基金充当400千円】		¥400,000	
(2) お花畑維持管理事業	1 三合目貴重植物保全事業	消耗品費、補助金等	¥6,000,000	¥2,000,000	¥9,000,000
	2 山頂等貴重植物保全事業	助成費、消耗品費、補助金等 【基金充当1,265千円】		¥4,000,000	
(3) 登山道維持管理事業	1 山頂等登山道維持管理事業	補助金 【基金充当500千円】	¥980,000	¥500,000	¥800,000
	2 表登山道等維持管理事業	消耗品費等 【基金充当480千円】		¥480,000	
(4) パトロール事業	1 応急手当対策事業	消耗品費等	¥40,000	¥40,000	¥100,000
(5) 啓発・収受事業	1 啓発・収受事業	委託料	¥1,600,000	¥100,000	¥3,550,000
	2 啓発・環境学習事業	補助金、備品費等		¥1,500,000	
(6) 事務経費	1 事務経費	手数料、通信運搬費、有料道路通行料、旅費、報酬	¥800,000	¥800,000	¥800,000
(7) 予備費	1 予備費	充当費	¥626,000	¥626,000	¥2,451,000
合 計			¥12,246,000	¥19,921,000	

【参考】

基金執行	R5期末残高見込	R6執行予定	R6期末残高見込
登山道施設改修基金	¥1,880,000	¥1,880,000	¥0
植生防護柵改修基金	¥1,265,000	¥1,265,000	¥0

自然再興（ネイチャーポジティブ）の推進 伊吹山の保全

令和6年度滋賀県当初予算

資料3-1

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課

多様な草花や生きものでにぎわい、多くの人を訪れる伊吹山を取り戻すことを目指し、【令和6年度予算額 1.3億円】南側斜面の復旧やお花畑の保全等に向けた取組を推進する

琵琶湖環境部 ①②④⑨⑩：自然環境保全課 ⑥⑦：鳥獣対策室
③：森林保全課
土木交通部 ⑤：道路保全課 ⑧：砂防課

南側斜面の復旧対策

南側斜面の中長期的な復旧対策を推進

- ①ロードマップの策定
南側斜面復旧に向けたロードマップを県・米原市が共同して策定
- ②植生復元対策
植生復元に係る調査・設計
【参考】R5年9月（6,500千円）・11月補正予算（25,000千円）
- ③治山対策
治山事業実施に向けた調査、米原市が行う治山対策への補助（16,800千円）
- ④登山道の復旧・⑤維持管理
表登山道の復旧工事（40,000千円）
・維持管理（道路補修費の一部）

ニホンジカ捕獲対策

植生の衰退や裸地化をもたらしているニホンジカの捕獲を推進

- ⑥高標高域における調査・捕獲
捕獲条件が厳しい高標高域でのニホンジカの調査・捕獲
（ニホンジカ対策事業費の一部）
- ⑦市の捕獲事業への支援
米原市が行うニホンジカ捕獲への補助
（ニホンジカ対策事業費の一部）



2007.6 南側斜面 2023.7

その他の対策

地域の防災対策や山頂お花畑の保全対策等を推進

- ⑧勝山谷川砂防堰堤整備事業
下流の人家や避難場所を保全する砂防堰堤の整備
（補助通常砂防事業費の一部）
- ⑨市の植生防護対策への支援
米原市が行う山頂お花畑での植生防護柵設置への補助
【参考】R5年11月補正予算（7,425千円）
- ⑩山頂公衆便所修繕
山頂お花畑の観光客・登山者が利用する公衆便所の修繕（2,500千円）

生物多様性の
象徴となる
伊吹山へ

多様な草花や
生きものが
にぎわう山

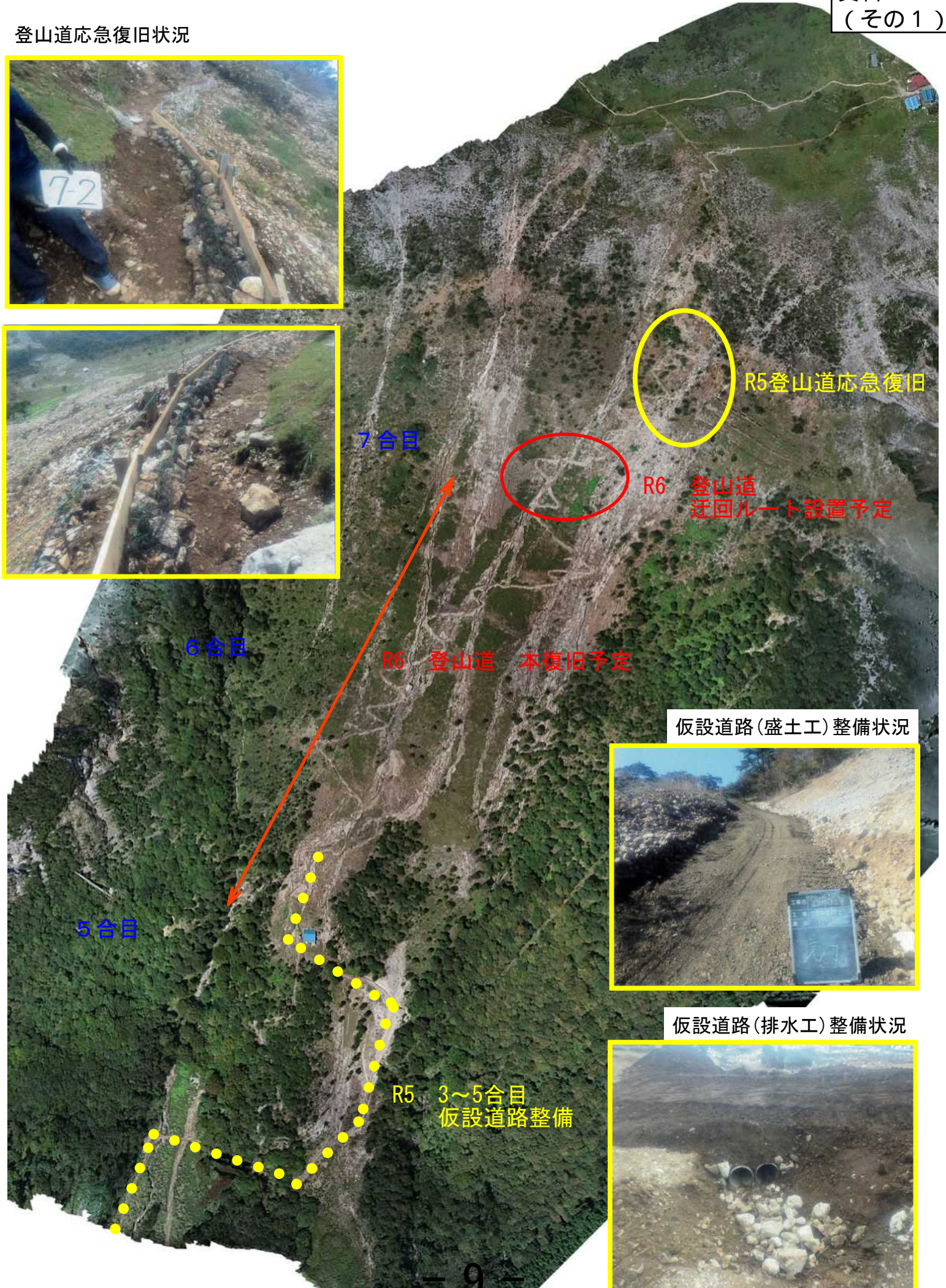
登山者の
安全確保

県北部地域の
振興



2008.8
山頂お花畑

登山道応急復旧状況



R5 登山道応急復旧

R6 登山道
迂回ルート設置予定

R6 登山道 本復旧予定

7合目

6合目

5合目

R5 3~5合目
仮設道路整備

仮設道路(盛土工)整備状況



仮設道路(排水工)整備状況



土質の専門家によるアドバイス

1. 崩壊箇所の土質状況



(写真1) 7合目付近の土質状況

7合目付近は、崩壊した土砂が溜まった水を通しやすい土質状況である。

7月の大雨により多くの水が地中を流れたことが土砂崩壊につながった要因の一つと考えられる。

2. 登山道の修復方法

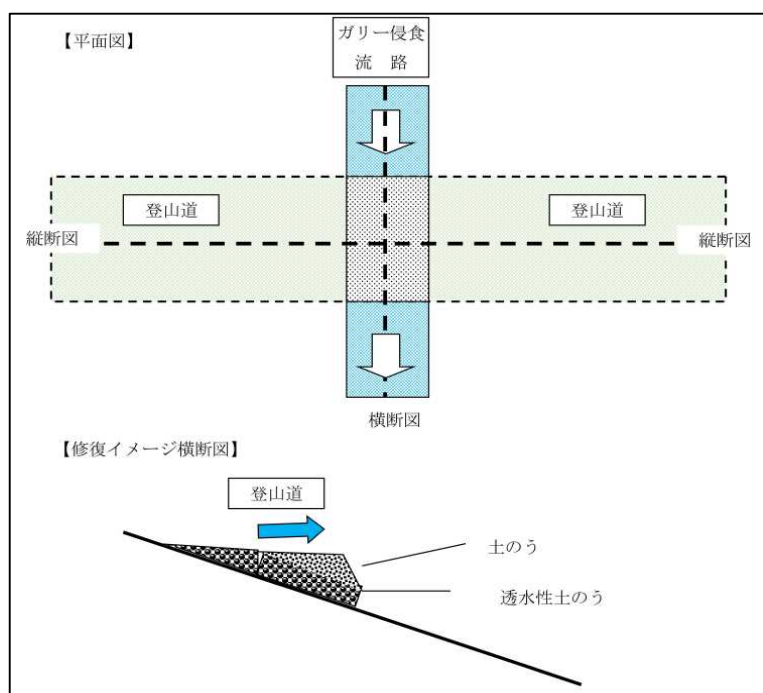
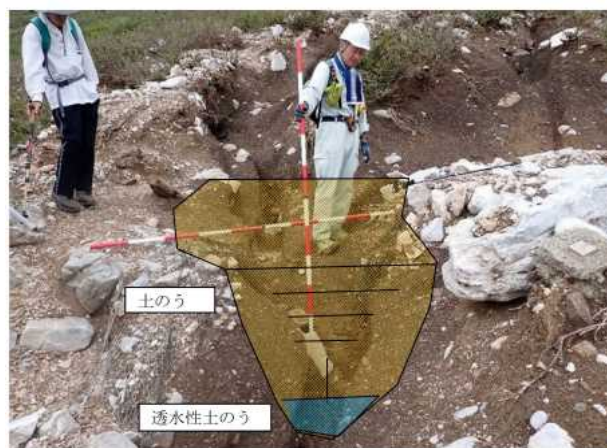


図1 登山道修復略図

最下部に石詰めした透水性土のうを置き、その上に土のうを積んで浸食部分を登山道化。再度発生が予想される土石流発生時には土嚢の上面を土石流が流れるような構造。



(写真2) 修復イメージ

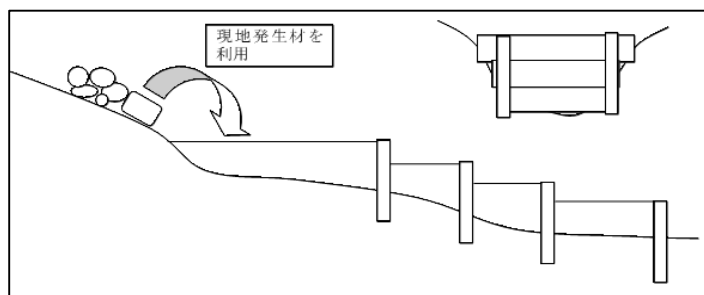


図2 流路略図

流路に木製の板や杭、現地発生材を用いた土留めを作り、表流水の流速を落として浸食の進行を減じる対策をとる必要がある。

予算総額：72,786千円

伊吹山の保全に係る令和6年度の取組(米原市)について

伊吹山植生復元プロジェクト

伊吹山の現状や取組を広く知っていただき、応援の輪を広げるため、「伊吹山植生復元プロジェクト」として、増えすぎたニホンジカの捕獲強化、裸地化した南側斜面の崩壊防止・植生回復、山頂・3合目における植生保全の活動について、その内容や保全団体の活動を紹介し、情報発信を行います。

伊吹山特設サイト（令和6年3月～）で随時情報更新

※「利用と保全のローカルルール」



復旧構想の策定

まち整備部まち保全課 予算額：9,064千円

伊吹山南側斜面等における中長期的な対策を講じていく上において、効果的な施策展開が可能となるよう復旧構想を策定します。

◇伊吹山に関係する地元および諸団体の意見の整合性を図る。

◇各種調査結果等に基づき、伊吹山の復旧基本方針について総合的に分析・検討し、復旧構想を策定



南側斜面が崩壊した伊吹



集中豪雨による土石流の発生



洗掘された登山道

プロモーション事業

市民部自治環境課 予算額：480千円
まち整備部まち保全課 予算額：676千円

プロジェクトを市内外に広く発信し、多くの方や企業等からの理解を深め、連携協力や財源確保を図ります。

◇プロモーション企画、パンフレット作成・配布、連携協力協定締結等

◇プロジェクトロゴを活用したノベルティ制作

◇伊吹山特設サイトの運営、イベント・PR活動など



支援企業との連携協定締結式



ロゴ活用イメージ



ニホンジカの捕獲強化

まち整備部まち保全課 予算額：24,302千円

伊吹山5合目から山頂の高標高域における捕獲をさらに強化するほか、冬期積雪期間の捕獲を強化し、生息数の適正化を図ります。

- ◇麓～3合目：囲いわな12基、箱わな15基、銃器捕獲
- ◇5合目～6合目：ドロップネット2基、銃器捕獲
- ◇滋賀産産：大型囲いわな1基、箱わな2基
- ◇山頂：大型囲いわな1基、箱わな5基
- ◇全地形対応車：雪上用ATVを導入し、冬期の捕獲を強化します。



南側斜面の崩壊防止・植生回復

市民部自治環境課 予算額：4,000千円
まち整備部まち保全課 予算額：3,398千円

令和5年度に試験施工した土のう筋工や植生マットの状況を踏まえた対策を実施します。

- ◇緑化基礎工（土のう筋工150㎡、伏工等）
- ◇作業道補修等重機レンタル



山頂・3合目における植生保全

市民部自治環境課 予算額：16,500千円（R5年度繰越事業）
教育部生涯学習課 予算額：5,000千円

山頂および3合目の草原植物群落を守るため、金属製の防護柵を設置します。

- ◇重点的に守るべき山頂西ゾーンは、全周金属化を実施（市L=500m、再生協議会L=600m）
- ◇山頂東ゾーンおよび貴重植物群落は、小中規模柵で確実に守るスポット柵を設置（市L=200m1基、再生協議会L=250m/80m2基）
- ◇3合目は残り550mのうち250mを化繊ネット柵から金属柵に変更（再生協議会L=250m）



伊吹山レンジャー活動

市民部自治環境課 予算額：9,166千円

地域おこし協力隊体制を活用し、伊吹山みらいづくり隊（伊吹山レンジャー）の配置を継続します。

- ◇山頂・3合目の草原植物群落の保全活動
- ◇入山協力金への協力啓発活動、イベント等を実施
- ◇伊吹山特設サイトによるPR活動



シビック・プライドを育む教育活動

教育部学校教育課 予算額：200千円

「米原市シビック・プライド 未来への一歩！～郷土愛と地域貢献～」を掲げ、生徒主体による伊吹山の再生・保全を考える学習活動やフォーラム等を開催します。

- ◇プロジェクト推進のために必要な取組を生徒主体で考える。（動画配信、クラウドファンディング、グッズの作成など）
- ◇伊吹山の現地に赴き状況を把握し、人と環境の関りを見つめなおす。
- ◇伊吹山に隣接するまちの学校とのコラボも検討



令和5年度 伊吹山ニホンジカ捕獲実績

捕獲箇所： 登山口から3合目までの林道沿い+5合目
 捕獲方法： 箱わな15基、囲いわな13基

わな位置図

令和5年8月25日 更新

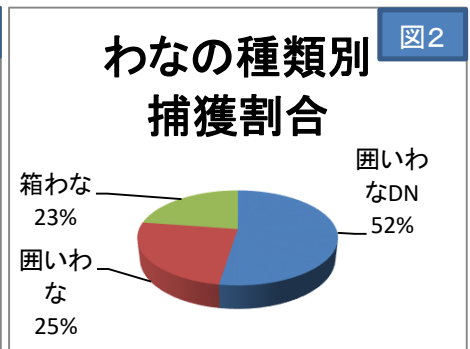
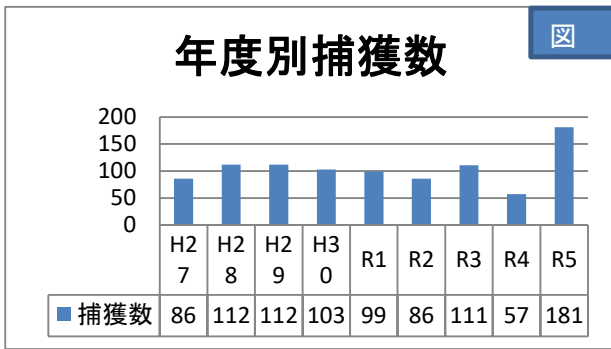
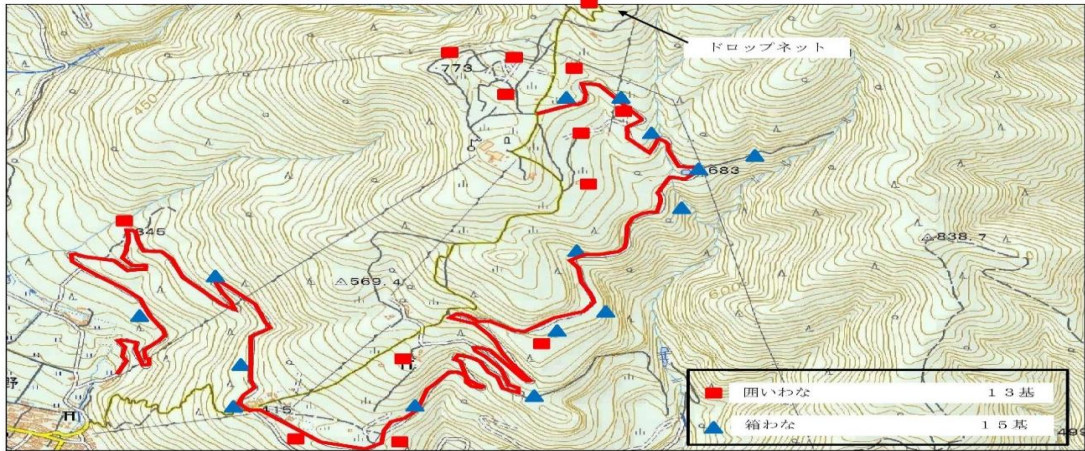


表1

わな種類	設置数	稼働日数	捕獲数	わな当たり数	日当たり数
箱わな	15基	115日	41頭	2.73	0.36
囲いわな	12基	115日	45頭	3.75	0.39
囲いわなDN	1基	62日	95頭	95.00	1.53

※3月12日現在

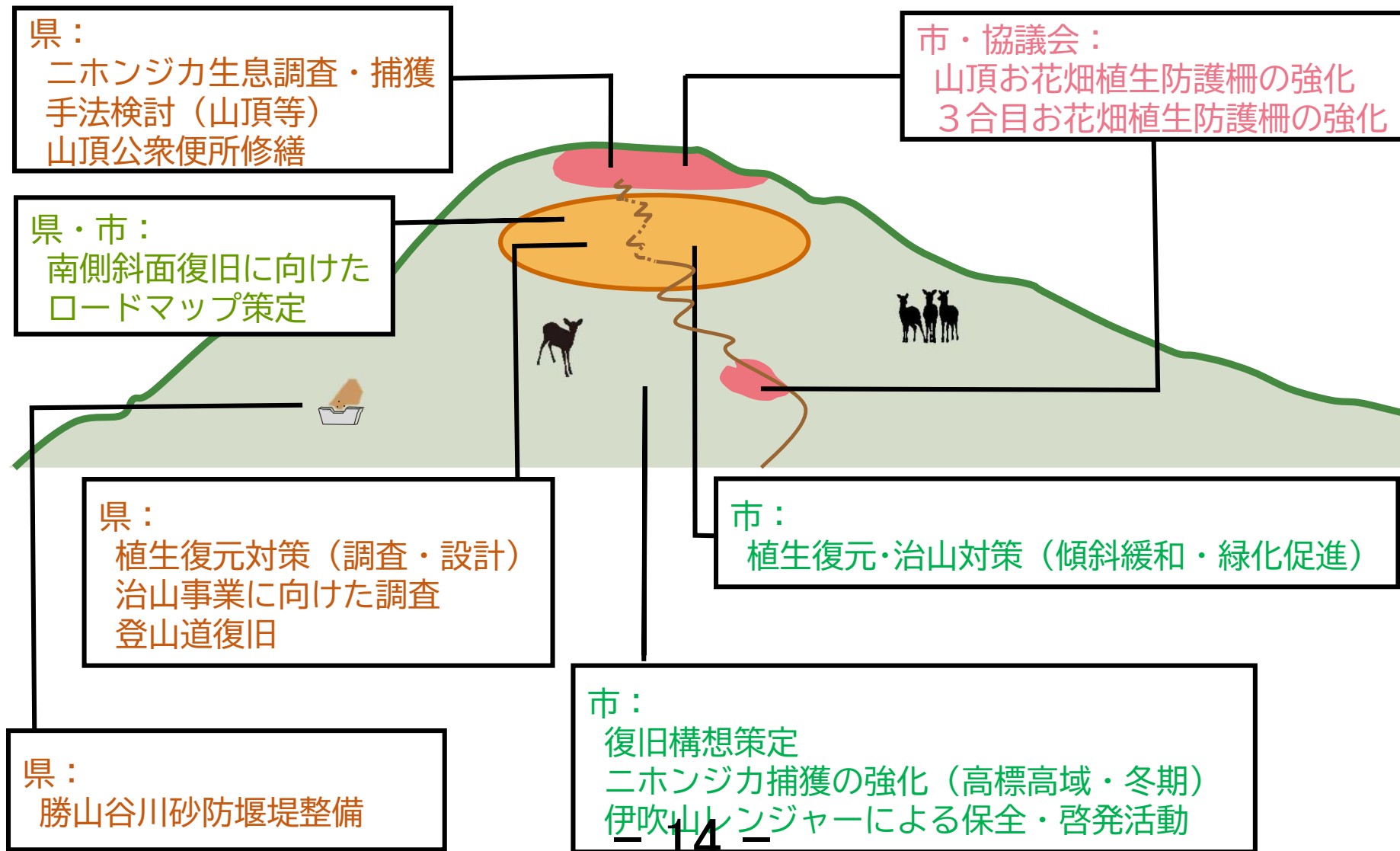
令和6年度 伊吹山ニホンジカ捕獲計画

- ①6合目 ドロップネット設置(6合目の詳細設置個所は検討中。)
(幅18m、奥行18m、高さ3m(予定))
- ②大型囲いわな、箱わなの追加設置(山頂、滋賀産内予定。)



設置後9日目の5合目ドロップネットでの進入状況。(ライブ映像より切り出し。)

令和6年度 県・市・協議会の主な取組予定



伊吹山を守る自然再生協議会

伊吹山再生全体構想の作成・改定
天然記念物伊吹山頂草原植物群落保存管理計画に係る協議
各団体の事業実施に係る連絡・調整

入山協力金事業部会

受益者負担の原則に基づく
施設管理と自然保護活動の実施



保全計画・結果の共有
連携・協力の推進

■ 地元・自然保護団体

自然保護活動の実施

■ 滋賀県

保全事業の実施
協議会事務局として、全体構想の進捗管理

■ 米原市

保全事業の実施、捕獲事業の実施
協議会事務局として入山協力金部会の事業執行
多様・多角的な支援・応援の獲得

▶ 伊吹山植生復元プロジェクトとして保全活動や保全団体をPR

■ 学識者

科学的見地からの指導・助言

■ 企業・山小屋組合

復元事業の実施、協力、情報発信

■ 国（環境省、文化庁）

指導、助言、支援

■ 岐阜県、揖斐川町、関ヶ原町

滋賀県側の取組と連携、取組推進

■ 長浜市

滋賀県・米原市と連携、取組推進

めざすところ

- ✓ 合意形成に基づく保全・保護・復元
- ✓ エコツーリズムの啓発、情報発信

伊吹山再生全体構想（平成21年3月、伊吹山自然再生協議会）より

伊吹山もりびとの会 活動計画 (2024年度)

異常気象や災害獣害に見舞われている伊吹山ではありますが今年度も会員
のご協力の元、大きく三つの活動計画で進めて参ります。

① 山頂部を中心とした植生復活、植生調査の実施

- 西登山道シモツケソウ再生地、植生経過確認・外来種駆除
- 西登山道シモツケソウ再生地周辺の保護管理
- 山頂部植生復活、における再生協議会事業への協力

② 登山道保全計画

- 登山、中央道・西・東登山道保護ロープ補修事業
- 西登山道シモツケソウ再生地ネット柵の補修、上げ下げ
- 植生外来植物の駆除対策
- 登山道土砂流出防護工事
- 山頂部パトロール・ゴミ拾い

③ 登山者への環境保全啓発・環境学習の取り組み

- 主に山頂部における自然観察会、ボランティアガイドの育成、事前研修
- エコツアーガイド依頼への対応
- 山の日、イベント・近隣地域学校、各種団体への自然学習の協力
- 伊吹山植生復元プロジェクトへの協力

年間活動計画の内半期分の予定 別紙

2024・03

	4月	5月	6月	7月
	・D/W開業予定 4/20			・伊吹山山開き 7月上旬
ボランティアガイド			●山頂西洋タンポポ除草イベント 6/2(日) (20名)	●夏の山頂ボランティアガイド 7/26~8/4(3~5名/日)
保全活動	●シモツケソウ再生地ネット 上げ作業 4/26(金) シモツケソウ再生地(6名)	●中央・西・東登山道・山頂周辺 保護杭・ロープ補修 ①5/8(水) ②5/10(金) ③5/13(月) ④5/15(水) ⑤5/17(金) ⑥5/20(月) ⑦5/22(水) ⑧5/24(金) 中央・西・東登山道(6名) ●パトロール・ごみ拾い、 西洋タンポポおよびシモツケソウ 再生地内植物調査 5/29(水) 西・中央・東登山道(6名)	●西洋タンポポ除草作業 6/5(水) 西・中央・東登山道(6名) ●登山道土砂流出防止工事 ①6/6(木) ②6/7(金) ③6/10(月) ④6/12(水) ⑤6/14(金) ⑥6/17(月) ⑦6/19(水) ⑧6/21(金) 登山道(6名) ●再生地内除草・外来植物の除草 6/15(土) <予備日6/16> シモツケソウ再生地(6名) ●パトロール・ごみ拾い 6/28(金) 西・中央・東登山道(6名)	●再生地内除草・外来植物の除草、 シモツケソウ再生地パネル設置 7/6(土) <予備日7/7> シモツケソウ再生地(6名) ●東登山道笹刈り ①7/8(月) ②7/10(水) ③7/12(金) 東登山道(6名)
自然観察会	●自然観察会 4/27(土) 伊吹山山頂			●自然観察会 7/13(土) 伊吹山山頂
研修会 その他				●夏のV/G事前研修会 7/20(土) AM 青木繁氏 伊吹山の花・植生について PM 伊吹山山頂で現地研修

【① 伊吹山ドライブウェイ沿線の希少植物調査】

チチブリンドウ・ホソバノツルリンドウを中心とした調査を2008年から毎年続けています。今年度は10月7日に5名の本会メンバーで行いました。2020年からは、ドライブウェイの山側の土砂防止ブロックの内側を中心に調査しています。個体数の結果は、チチブリンドウ30株（前年34）ホソバノツルリンドウ13株（前年18）とわずかに減少しています。個体自体が小さいのも気になります。その他イブキコゴメグサ・ダイモンジソウ・ヤクシソウ・ウメバチソウ・イブキトリカブト・ヤマハッカなども確認しています。

【② 笹又登山道 鹿防止柵設置後の植生調査と保全活動】

2022年10月に岐阜県笹又登山道に再生協議会として鹿防護柵を設置、2023年春より柵の保全とあわせて柵内の植生調査を本会が担当しました。調査回数は6回、いずれもネット柵の外側から目視確認し写真撮影しました。不明種を含めて105種を記録、そのうち開花確認種は68種でした。

マネキグサは、8月19日調査で20株前後のマネキグサの株を確認。株の高さは20cm前後で、大きいとまではいきませんが、その多くの株が開花していました。2020年から開花株の確認が出来ていなかったため、柵設置の効果が、まずはあったと考えられます。



イブキレイイジソウは、8月19日調査で、根生葉らしき葉を数株確認し、9月調査で開花を確認しました。

その他 ヤマブキソウ・ヤマトグサ・ワチガイソウ・サンインヒキオコシなども開花確認できました。また多くの植物が果実をつけ、来年につながる一步を築くことができています。



山側にあった枯れた大木が、8月15日の台風7号で倒れ、ネット柵が大きく圧迫されていました。11月の米原市合同ネット下げ作業時に切断し撤去しました。

登山道のヒナノキンチャク生育地は、斜面の崩落が激しく、生育の危機が続いています。再生協議会として本会と米原市が土砂防止のための杭の設置を行いました。

- 4月15日(日) 総会&長尾寺
テーマ「伊吹山麓の山寺で、春の息吹を感じ、早春の花に出逢おう。」
参加者：8名

- 5月7日(土)
テーマ「春の花を訪ねて、伊吹山北尾根を歩こう！」
〈中止＝荒天のため。事務局にて実施〉

- 6月3日(土)
テーマ「伊吹山三合目ハイクで春の花を楽しもう」
〈中止＝台風の影響のため。事務局にて実施〉



- 7月1日(土) 伊吹山山頂で現地研修会
テーマ「伊吹山頂で自然と環境について学ぼう」
〈中止＝荒天のため。事務局にて実施〉

- 7月29日(土)・31日(月) 夏休み特別企画「親子自然観察会」
テーマ「見て、聞いて、感じよう！」
参加者：14名

- 8月27日(土) 伊吹山頂&笹又登山道
テーマ「伊吹山山頂と笹又登山道の秋の花を楽しもう」
参加者：17名



- 9月16日(土) 伊吹山山頂&笹又
テーマ「伊吹山で鹿防護柵修復作業&調査、観察会」
参加者：7名

- 10月14日(土) 賤ヶ岳周回～余呉湖
テーマ「賤ヶ岳に登り、戦国の世に思いを馳せながら、展望を楽しもう。」
参加者：8名

- 11月25日(土) 佐和山
テーマ「佐和山城址彦根城を巡る紅葉のロングハイキングを楽しもう。」
〈中止＝荒天のため。事務局にて実施〉

- 3月9日(土) 伊吹山麓 小泉・大久保集落
テーマ「伊吹の山里で、早春の花々と生きもののにぎわいを感じよう」
参加者： 名



ユウスゲと貴重植物を守り育てる会 2023年活動報告と2024年活動計画

2024.3.25

【2023年の実施状況】

1 伊吹山3合目獣害防止ネットの点検、維持補修、植生保全等

○作業内容 ・ネットの損傷点検、補修、ネット際・観察路の草刈り、・ネット内のススキ、ワラビ、スイバ、フジテンニンソウ等の雑草除去、昨年度設置の金属柵内のススキ刈取り、秋の全面刈り

○作業日 ・ネット引き上げ 3月9日、15日(昨冬少雪のため、昨年より1ヶ月早い活動スタート)
・ネットの点検、ネット際の草刈り、金属柵内のススキ刈取り等 4月~9月の原則毎週木、日曜
・ネット内の全面刈り 11月9日、11日、15日

実作業人数 259人日 (*2022年 208人日)



3月9日ネット引き上げ



3月15日カタクリネット張替



5月18日フジテンニンソウ除去



6月1日ススキ刈取り



8月4日ススキ刈取り



9月7日ススキ刈取り



11月9日全面刈取り



11月15日全面刈取り

2 金属柵の新設

(株)資生堂様の支援によりユウスゲ柵の樹脂ネットの一部200mを金属柵に更新(5/24、10/27)

【5月24日の様子】



樹脂ネットの撤去



支柱の打ち込み



金属網の取り付け



金属柵設置完了

【10月27日の様子】



支柱の打ち込み準備



支柱の打ち込み



金属網の取り付け



金属柵設置完了

★2022年9月実施の延長180mの新設金属柵内で顕著な植生回復を確認。



戻ってきたユウスゲの花



オオナンバンギセル



コバギボウシ



イブキフウロ

3 植物観察会の開催

○次のとおり三合目で毎月観察会を開催。土砂災害による登山道通行禁止のため7月以降は中止。

開催日	参加者	観察できた主な花
4月16日、4月22日	27人	アマナ、イカリソウ、イブキスミレ、ウスバサイシン、エイザンスミレ、エンレイソウ、カタクリ、スハマソウ、エビネ、ニリンソウほか約20種
5月21日、5月28日	30人	イブキノエンドウ、エゾノタチツボスミレ、オドリコソウ、カキドオシ、カナビキノウ、クサタチバナ、チゴユリ、フタリシズカ、ホタルカズラなど約30種、
6月18日、6月25日	30人	イブキトラノオ、オカトツナミソウ、カラマツソウ、キバナノレンリソウ、クサフクマルバナ、ササユリ、スズサイコ、タカトウダイ、ハクサンフウロ他約20種



4月16日ニリンソウ



5月21日アヤメ



6月25日ハクサンフウロ



6月25日スズサイコ

4 ユウスゲまつり ⇒登山道土砂災害のため開催中止

・7月23日(日)～25日(火)の3日間の予定、参加申し込み125名。

5 植生調査

3合目の獣害防止柵内の植生調査を植物の専門家の指導の下に実施。また植生の推移を調べるため3か所で2m四方の定点調査実施。

ユウスゲ柵内で約210種、オドリコソウ柵内で約150種確認。

- ① 5月9日 オドリコソウ柵(昨年新設の金属柵)内の調査 76種
- ② 5月21日 ユウスゲ柵内の調査 127種
- ③ 6月25日 ユウスゲ柵内の調査 128種
- ④ 8月29日 ユウスゲ柵 107種・オドリコソウ柵内 57種
- ⑤ 11月8日 ユウスゲ柵 68種・オドリコソウ柵内 49種



6 種子採種事業

米原市が実施する裸地化した斜面の植生回復事業に必要なニホンジカの嗜好植物の種子を採取。

採取した種:クララ(9/3～9/23)、タケニグサ(9/3～10/24)、チカラシバ(10/18～10/24)、
レモンエゴマ(11/11、15)

採取量:クララ(種子)0.8kg、タケニグサ(莢を含む)20.6kg、チカラシバ(果実)19.7kg、
レモンエゴマ(莢を含む)3.4kg。



タケニグサ採取



レモンエゴマ採取



クララ



レモンエゴマ

7 学校の環境学習支援

① 学校登山ガイド

伊吹小学校(6/5、16)、春照小学校(5/31)、伊吹山中学校(6/13)、大東中学校(6/2)
大阪市内私立中学校(5/23)

② 伊吹山学習の座学 米原市内の6小中学校で実施

8 花だよりの発行

- 4月～7月に毎月発行。2,000枚。⇒8月以降は中止
- 地元区全戸、市内の公共施設、インフォメーションセンター配置。米原市HP掲載 JA伊吹支店に掲示
- 内容 季節の花紹介(解説付き)
- トピックスなど



令和5年6月号表面



令和5年6月号裏面

9 牧野富太郎と伊吹山パネル展の開催

- (伊吹薬草の里文化センター、伊吹山文化資料館と共催)
- 日時:2023年7月12日～23日
- 場所:伊吹薬草の里文化センターgallery かくとだに



【2024年の活動計画】

1 活動の経過と主な活動計画

- ①これまでの継続的取組で3合目における獣害防止柵内の植生回復が一定維持。令和4年度以降新たな金属柵の設置により保全エリアの拡大とより確実な植生保全。
今年度も引き続き金属柵への取替および柵の保守管理で貴重な植生の保全に取り組む。
- ②3合目の獣害防止柵内外の植生調査を継続・充実し、今後の生態系保全対策に活用できるデータの取得・管理。
- ③伊吹山登山禁止を踏まえた限定的な形で3合目の植物観察会の実施。

2 活動計画

(1) 獣害防止柵の設置、メンテナンス

○スケジュールと活動内容

3月 ネットを引き上げ、必要な補修

(開始予定 3月17日)

登山道脇・高屋のカタクリネットの点検・修繕

高屋のスマレ群落のロープ規制

2合目ヒロハノアマナ柵の金属柵更新

ネット内のススキの搬出(必要な範囲で)

⇒中腹の植生回復事業活用。

4月～10月 獣害防止柵の点検、補修



作業日:4月、10月は原則日曜日、

5月～9月は原則木曜と日曜日

11月 ネット引き下げ

○金属柵への更新予定(赤線)

① 企業支援による金属柵への更新予定:2回 約200m ⇒ユウスゲ柵の金属柵更新完了見込み

② 環境活動助成の申請(審査中) ⇒ 採択の場合、イブキトラノオ柵100mの金属柵更新予定

また、3年間の助成でササユリ柵の更新予定

*なお、2合目のヒロハノアマナ柵を金属柵に更新予定

(2) ネット内の植生保全等

5月～10月 ササ、ススキ・ワラビ、フジテンニンソウ等の刈取り、ネット際・観察路等の草刈り

*特に近年ササ群落が優占し他の植物の成長を妨げ刈取り実施予定

11月 全面刈り

12月、3月 ススキ搬出

(3) 植生調査

4月～10月 ユウスゲ柵、オドリコソウ柵内の植生調査、記録(原則月1回)

4月～6月 (新規)3合目高屋の植生調査

5月 17日 (新規)3合目高屋等の樹林調査

(4) 植物観察会

広く公募せず過去の参加者など限られた方に限定し、メンバーの車等で往復のスタイルで4月から

10月まで毎月実施。

実施予定日:3/31(日)、4/14(日)、5/25(土)、6/22(土)、8/24(土)、9/21(土)、10/12(土)

(5) ユウスゲまつり

今後米原市と実施の可否等を協議予定。

(6) 種子採種事業

米原市が実施する裸地化した斜面の植生回復事業に必要なニホンジカの不嗜好植物の種子を採取。

(7) 環境学習・啓発事業

・米原市内の小中学校等の環境学習(座学・フィールド)を支援

・伊吹山の魅力や課題を情報発信

岐阜県における伊吹山の生態系回復への取り組み



岐阜県環境生活政策課
岐阜県野生動物管理推進センター

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

被害状況

▷ 強度な採食圧の結果



下層植生の衰退



植物の矮小化



土壌流失・斜面崩壊
※豪雪と雪崩の影響あり

春先の融雪洪水や豪雨時の増水による浸食もあるが、シカが下層植生を衰退させることで、植生が回復できていないように考えられる。

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

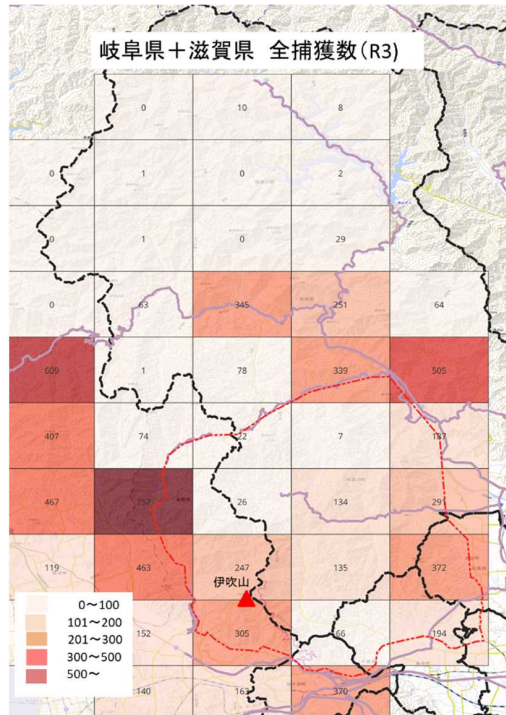
調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

捕獲状況



- ▷ 伊吹山の麓にある笹俣地区には狩猟者が少ない。
- ▷ 捕獲者が使用できる伊吹山山頂へ向かう道がない。
- ▷ 被害防止捕獲（有害）は、冬季は行っていない。

山頂付近での捕獲は簡単ではなく、山頂付近では捕獲が進んでいない。

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

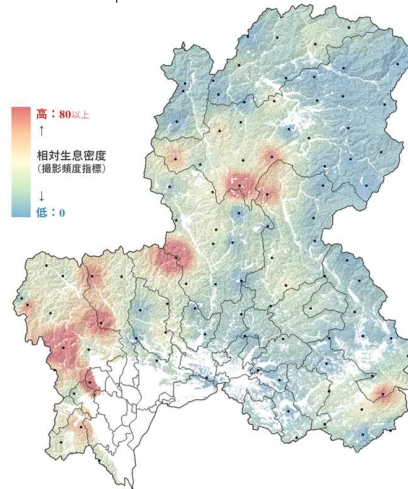
- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

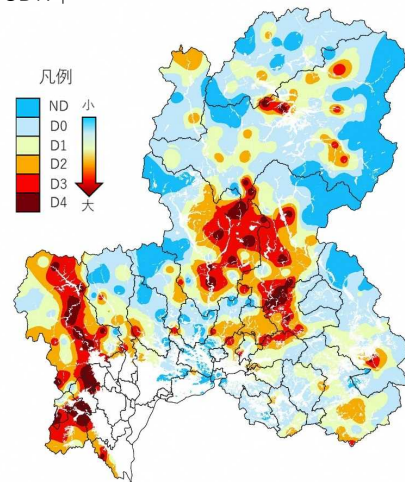
- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

生息状況

WiLCaM | 広域カメラモニタリング (撮影頻度)



SDR | 下層植生衰退度



- ▷ 岐阜県では、これまで伊吹山周辺での生息密度調査を行っていない。

生息密度に基づいて、管理目標を計画する必要がある

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

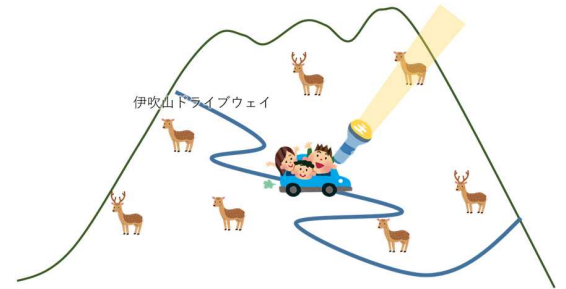
- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

スポットライトカウント調査

目的 | シカの生息状況を把握する

▶ 各月における①生息密度 ②標高別利用状況を調査する

手法 | ルート：伊吹山ドライブウェイ（約16km）



夜間に一定のルートあるいは調査地を照射しながら発見された個体をカウントする。夜間にセンサスすることで、ライトに反射してシカの目が光り発見しやすいこと、またシカ類のように夜間採食活動が活発になる種は発見が容易になる。

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

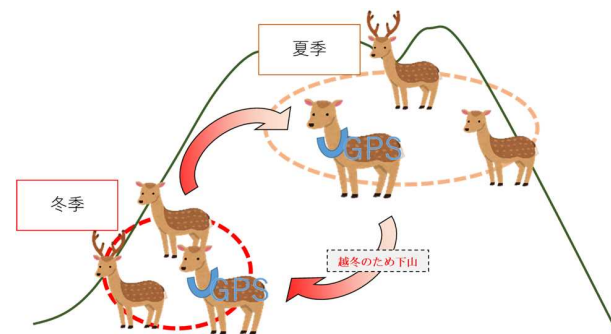
調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

GPS首輪による行動状況調査

目的 | シカの季節移動のタイミングや移動先を把握

手法 | 捕獲場所：伊吹山ドライブウェイ（約16km）



シカにGPS付きの首輪を取り付け、行動状況を調査する。

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

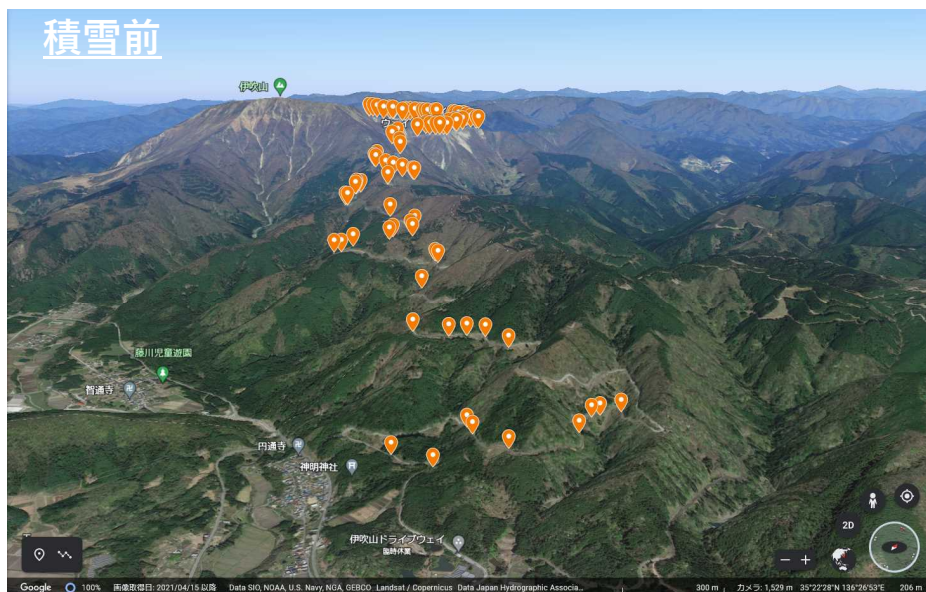
- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

スポットライトカウント調査

結果 |



高標高を中心に、**高密度**に分布 (30.5~61.1頭/km²)

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

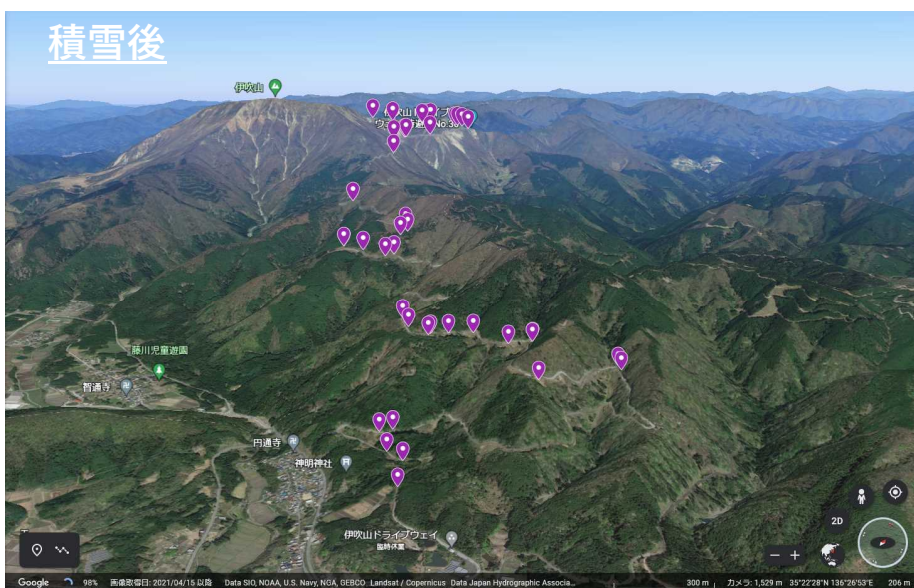
- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

スポットライトカウント調査

結果 |



低標高から高標高の地域に**低密度**に分布 (9.2頭/km²)

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

GPS首輪による行動状況調査

結果 |

積雪前



雪が降るまでは、高標高を局所的に利用

岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

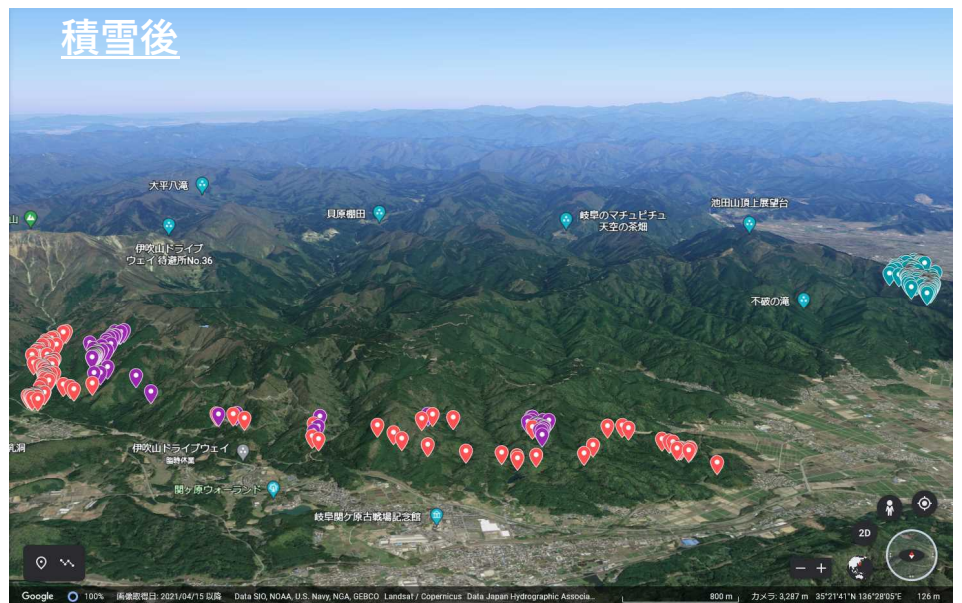
調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

GPS首輪による行動状況調査

結果 |

積雪後



積雪を避けるために、山麓部に7~10km移動

岐阜県の状況

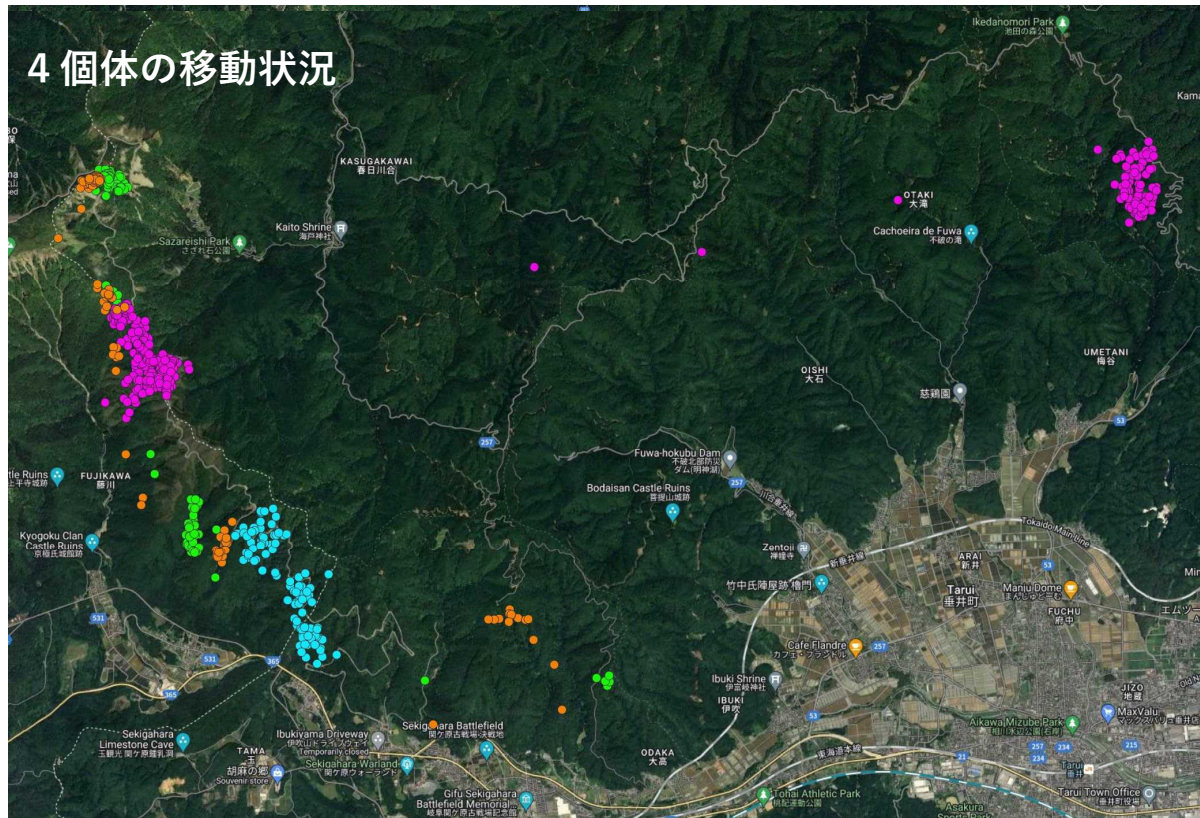
- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査



岐阜県の状況

- ・被害状況
- ・捕獲状況
- ・生息状況

調査目的と手法

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

調査結果

- ・スポットライトカウント調査
- ・GPS首輪による行動状況調査

